

# 備前焼で現代によみがえる中四国最古の寺院 秦原(廃)寺



150分の1スケールで復元した秦原(廃)寺の模型を眺める小橋武史さん(左)と片岡裕平さん(右)

秦原(廃)寺を備前焼で復元した模型が完成し、市役所や市図書館などで展示されました。

模型は秦地域の歴史的風土を保存し、後世に伝承している「秦歴史遺産保存協議会」が復元。縮尺は150分の1です。市教育委員会は調査などから、南門、中門、塔、金堂、講堂が一直線に並ぶ四天王寺式の伽藍配置を推定。その推定図から、事務局長の小橋武史さんが設計図を起し、それを基に副会長の片岡裕平さんが制作。備前焼作家に指導を仰ぎ完成に至りました。

片岡副会長は、「日曜大工の感覚で作成した。秦原(廃)寺があったということをもっと多くの人に知ってもらいたい」と話しました。

模型は、サントピア岡山総社で常設展示されます。

## 秦原(廃)寺とは？

秦原(廃)寺は、飛鳥時代に創建されたとされる四六ヶ寺の一つと考えられています。中四国最古の寺院跡の一つであり、渡来人であった秦氏の氏寺であると伝えられています。昭和34年3月に、県史跡に指定されました。

寺院は東西南北108メートル前後で、サントピア岡山総社の北約800メートルに位置していました。本格的な発掘調査がなされていないため、詳細は不明ですが、南門、中門、塔、金堂、講堂、回廊があったとされています。

約800年前に廃寺となりましたが、寺域の片隅には、建物の礎石と塔の中心柱の礎石(心礎)が置かれています。寺域からは、飛鳥様式の八葉蓮花文軒丸瓦と、吉備寺式と呼ばれる特徴的な装飾の軒丸瓦や鬼瓦が出土しています。北側にある秦天神社境内では、瓦の窯跡も発見されています。また、昭和40年の土地改良事業で、南門の柱の高野槨が発見されました。瓦と高野槨は、南溝手の市埋蔵文化財学習の館で展示されています。

問い合わせ 文化課文化財係 (☎) 8363



出土した瓦



秦原(廃)寺跡



生け花展



鬼火(演劇)



音楽の絵本  
～ズーラシアン吹奏楽部! with 総社市内中学校吹奏楽部&合唱部～



R&Bジョイフル・コンサート  
～吉備から発信する日本の歌 パート2～



墨彩画の展示



心のひだ・きびの美術  
～遠との共鳴～



和楽器の魅力



難波聖爾展



パッチワーク・キルト展  
想いをパッチワークキルトに

**総社芸術祭 2017**  
4月23日から5月7日までの会期で、第3回総社芸術祭2017が開催されました。  
テーマは過去2回と同様「赤と黒」。鬼とされた温羅、たたら炎、豪溪の紅葉などの赤と、水墨画の墨、黒媛伝説、備中国分寺五重塔などの黒に関連する造形や舞台で13の事業が、市内各地で展開されました。  
会期中に訪れた人は約2万人。市民が作りあげた総社の芸術に、多くの人が魅了されていました。



URA-BAND コンサート



赤と黒のフォトツリー



堀和平展・  
吉備野を織る



～赤と黒の世界Ⅲ～  
河田雅史写真展